

富士のさと イングリッシュキャンプ

令和3年8月6日（金）～8月8日（日）2泊3日

○目的

外国と日本の文化の違いを理解し、外国人と交流することの楽しさに気づくことでコミュニケーションスキルを育む。また、生きた英語表現を学び、覚えた表現をアウトプットすることで、英語で外国人とコミュニケーションを図ることに対する意欲や挑戦心を引き立たせ自信をつける。

○参加者

小学5・6年生 28名（男子：15名、女子：13名）

○本事業の特徴

キャンプ富士（米軍海兵隊諸職種共同訓練センター）と連携し、3日間通して海兵隊員とともに活動する。



○事業の内容

（1）基本の会話を練習しよう／自己紹介をしよう

キャンプ中でよく使う表現や基本的な会話を練習した。会話のきっかけづくりや仲間づくりにつながった。

（2）文化の違いを比べてみよう！

日本とアメリカの衣食住の文化や風習の違いをクイズ形式で比較し、地域により文化が違うことを学んだ。アメリカのクイズは海兵隊員からの出題であった。

（3）出入国審査・買い物練習

オリジナルのワークシートを用いて出入国審査や買い物でのやり取りの練習をした。キャンプ富士へ向かう前の模擬出国審査や施設内でのランチの注文が、実践する場となった。

（4）BBQ

違いを体験的に知るための導入として、はじめに食文化の違いに関するクイズを行った。

（5）キャンプ富士施設見学

警察署や消防署、図書館などの見学のほか、レストランでのランチの注文やドル貨幣を使っでの買い物などリアルなアメリカの文化を体験した。



入国審査



ランチの注文



図書館

(6) キャンドルサービス

日本とアメリカ双方の出し物を行った後、“Lean on me”を歌った。これは海兵隊員とともに事前に練習したもので、英語で歌えるようになったことに自信をもつ参加者もいた。

(7) 日本とアメリカの『遊び』を楽しもう！

日本の遊びとして「しっぽ取りゲーム」、アメリカの遊びとして「Duck Duck Goose」などの遊びを通して交流を深めた。

(8) 思いを伝え合おう！

3日間で感じたことやできるようになったこと、思い出などを絵や文字で自由に表現し、一人ずつ発表した。準備の段階では、海兵隊員に英語での表現や発音を教わる姿が見られた。



日本とアメリカの『遊び』を楽しもう！ 思いを伝え合おう！（準備）

思いを伝え合おう！（発表）

○参加者の声（事後アンケートより）

- ◆ 「初めて外国人と交流できて楽しかったです。」
- ◆ 「英語が読めなかったけど、ちょっと読めるようになって、最後も歌も英語だけで歌えた。」
- ◆ 「英語に関係する仕事をやりたい。」

○アンケート結果の考察

「英語を身近に感じるか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思うか」「交流した外国の人と将来も繋がりをもちたいか」という項目に対して、「とても思う」と回答した人は事業前に比べ、事業後はいずれも約3～4割程度増加している。事業内での体験や海兵隊員との交流により、意識が変化したことがうかがえる。

○成果・課題

- しおりの中に、「サインのページ」を設け、英語で会話ができたらサインをもらおうという仕掛けをつくったことにより、ほとんどの参加者がプログラム以外の場面でも英語で話すことに挑戦できたと回答した。英語で話しかけるきっかけにもなり、自分の挑戦の軌跡が形として残るので、今後も取り入れていきたい。
- プログラム運営について、海兵隊員が主体となって前に立つ場面を設けたことで、海兵隊員と参加者が積極的に交流し、それが相互の関係性の深まりに寄与したのではないかと考える。
- 事業内での体験を通して、将来の職業の選択肢が増えた参加者もいたことがわかった。異文化交流・異文化体験に止まらず、将来への可能性につながったことは意義深いと考える。
- ボランティアや職員およびキャンプ富士との間で、プログラムのイメージを共有できていない場面があった。今後はICTなども活用しながら事前の打ち合わせを十分に行っていきたい。
- 小学校で英語が教科化されたとはいえ、学習が始まったばかりなので、語彙や書くことについては普段英語にあまり触れていないレベルに合わせてプログラムの導入や仕掛けを工夫する必要がある。